

# 周産期メンタルヘルス制度設計私案 シンポジウム

2022年5月29日(日) 13:00 - 17:00

オンライン開催

参加費:無料 定員:100名(先着順)

今後の我が国の周産期メンタルヘルス制度について北村俊則の私案を提案した上で、本領域に関連する様々な立場のシンポジストより批判的に検討いただき、より実効性のある制度設計案の提案を図ります。

13:00-14:00	周産期メンタルヘルス制度設計私案: その概要と問題提起(北村俊則) *抄録は裏面に記載
14:00-14:10	休憩
14:10-15:40	各シンポジストからの批判 *シンポジスト一覧は裏面に記載
15:40-16:00	休憩
16:00-17:00	全体ディスカッション・まとめ

ご登録:登録用Googleフォームより必要事項をお送りいただくか、申し込み用紙にご記入の上、下記メールアドレスにお送りください。後日、参加用URLをお送りいたします。

登録用Googleフォーム: <https://forms.gle/BiA1QjNmrQKWVrw9>

(右の二次元バーコードからもアクセス可能です)



主催:北村メンタルヘルス学術振興財団

151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-26-3 富ヶ谷パークランドハウスA棟

電話 03-5738-8371

E-mail [zaidan@kokoroclinic.jp](mailto:zaidan@kokoroclinic.jp)

URL <http://www.kitamura-foundation.org/index.html>

## 北村俊則 周産期メンタルヘルス制度設計私案 抄録

周産期メンタルヘルスケアの外延と内包について、臨床家・研究者によって必ずしも一致していない。拙著「周産期メンタルヘルス制度設計私案」では、妊娠前から始まり、妊娠期を経て産後までをカバーした。様々な事項に対応した有効なサービスを構築しなければならない。日本の周産期メンタルヘルスケア、ことに産後のケアは、重症度の最も高い部分と最も低い部分は充実している。欠けているのは、中間に位置する事例である。そこで、精神科病床に「精神科周産期治療病棟」(仮称)といった病棟を作ることが希望される。入院期間の上限(例えば 6 週間)を決め、母児同時入院と配偶者の同室宿泊を許可し、スタッフには精神科医、産科医(単科精神科病院に設置する場合は非常勤可)、精神科看護師、助産師に加え、発達心理師などの配置を義務付ける。新生児室、授乳室などの設備も備える。宿泊型産後ケア事業との連携を持つことで、相互に患者の移動を可能とする。この提案の実効性について、架空事例を提示することで議論を深める。

### シンポジスト (順不同、今後追加の可能性あり)

- ▶ 山本智美 先生 (聖母病院)
- ▶ 八巻和子 先生 (医療法人 優心会 竜王レディースクリニック)
- ▶ 吉田敬子 先生 (メンタルクリニック あいりす)
- ▶ 木村大 先生 (国際医療福祉大学 成田キャンパス)
- ▶ 福田倫明 先生 (日赤医療センター)
- ▶ 佐々木恵 先生 (仙台市立病院)
- ▶ 中島かおり 先生 (ピッコラーレ)
- ▶ 竹内崇 先生 (東京医科歯科大学)
- ▶ 渡邊博幸 先生 (学会会木村病院、千葉大学)
- ▶ 相川祐里 先生 (済生会横浜市東部病院)